



副腎皮質がん

(ふくじんひしつがん)



※内容を簡素に記載しております。詳しくはHPをご覧ください。

副腎皮質がんについて

副腎は、お腹のなかにあり、体のバランスにかかわるホルモンを産生する臓器です。小さな臓器ですが、解剖学的な部位から副腎皮質（ふくじんひしつ）と副腎髄質（ふくじんずいしつ）に分けられています。副腎皮質がんは副腎皮質から発生する非常にまれながんの1つです。

診断について

副腎皮質がんが疑われる場合には、副腎皮質で作られるホルモンの状態を調べるため、血液検査や尿検査により体の中に分泌されているホルモン濃度を確認します。また、病気の性状や広がりを確認するためにはCTやMRIなどが有用とされています。ただし、副腎にできる腫瘍で、カテコラミンと呼ばれるホルモンを産生する褐色細胞腫（かっしょくさいぼうしゅ）という病気の場合は、ヨードを含むCTの造影剤で急に血圧が上昇する危険性があるため、MRIでの診断を行うか、造影剤を使用するCT検査の前に褐色細胞腫でないことを確認しておく必要があります。

治療について

切除可能な副腎皮質がんの治療

一般的に副腎皮質がんは、腫瘍が大きくなるスピードが速く、周囲の臓器などへも浸潤するため、発見された時には進行していることの多い病気です。しかし、遠隔転移がなく副腎皮質がんの広がりが完全に切除可能な範囲である場合には、外科的手術を行います。

切除不能または転移性の副腎皮質がんの治療

すでに副腎皮質がんが手術で取り去ることができない程度に進行している場合や、他の臓器に転移している場合には、病気の進行を抑えることを目的に薬物療法を行います。

切除不能または転移性の副腎皮質がんであっても、薬物療法で十分に腫瘍が小さくなり、切除可能になった場合や、副腎から産生されるホルモンによる症状が薬物療法で十分にコントロールできない場合には、手術を検討することがあります。

